市内25ヵ所を市長が視察

道路、農業用水路、公園予定地など現在問題になつている場所や、工事を計画している場所を6月6日と7日の2日間、渡辺市長が現地視察を行ないました。

視察は6日が吉原地区、7日が富士・鷹岡地区で、25ヵ所を視察しましたが、いずれの場所も市民生活に密接に結びついたものばかりです。なお、視察した25ヵ所のうち江尾、三ツ沢、富士駅南地区の問題は次のとおりです。

■江尾地区農業用水問題

地元から「田植をしたくても水田に水が入らないのでこまる。何とかしてほしい」と要望がありました。このため現地を視察しましたが、この問題も一度使用した水を再利用することによつて解決できるので、早急に対策を立て、一番効果があがる方法で実施することになりました。

■三ツ沢地区の道路問題

三ツ沢地区は3年前203世帯でしたが、現在は288世帯と大きく伸びています。ところが、道路幅は昔のままで拡幅もこれ以上できない状態です。このため幹線道路の新設が望まれていますので、県営住宅団地の関連など考え合せ検討しています。

■富士駅南地区排水路問題

駅南地区の排水路は、測溝が狭いうえ曲つているので、雨が降ると道路へあふれ、川のようになつてしまいます。ところが、排水路ぞいに家が建つているので改良はむずかしく、技術的にどうしたらよいか検討しています。

実施できるものは すぐにも

なお、渡辺市長は「2日間の日程では市内全域を見て回ることができなかつたけれど、机の上で地図を広げて話しを聞くより、なんといつても自分の目で確めるのが一番。地元の人たちの意見を聞いて実情も良くわかつたので、すぐ実施できるのは実行していく。予算や関連事業など問題があるものは早急に検討し、対策を立てる。」と感想をのべていました。

富士山

自然環境の保護に乗り出す

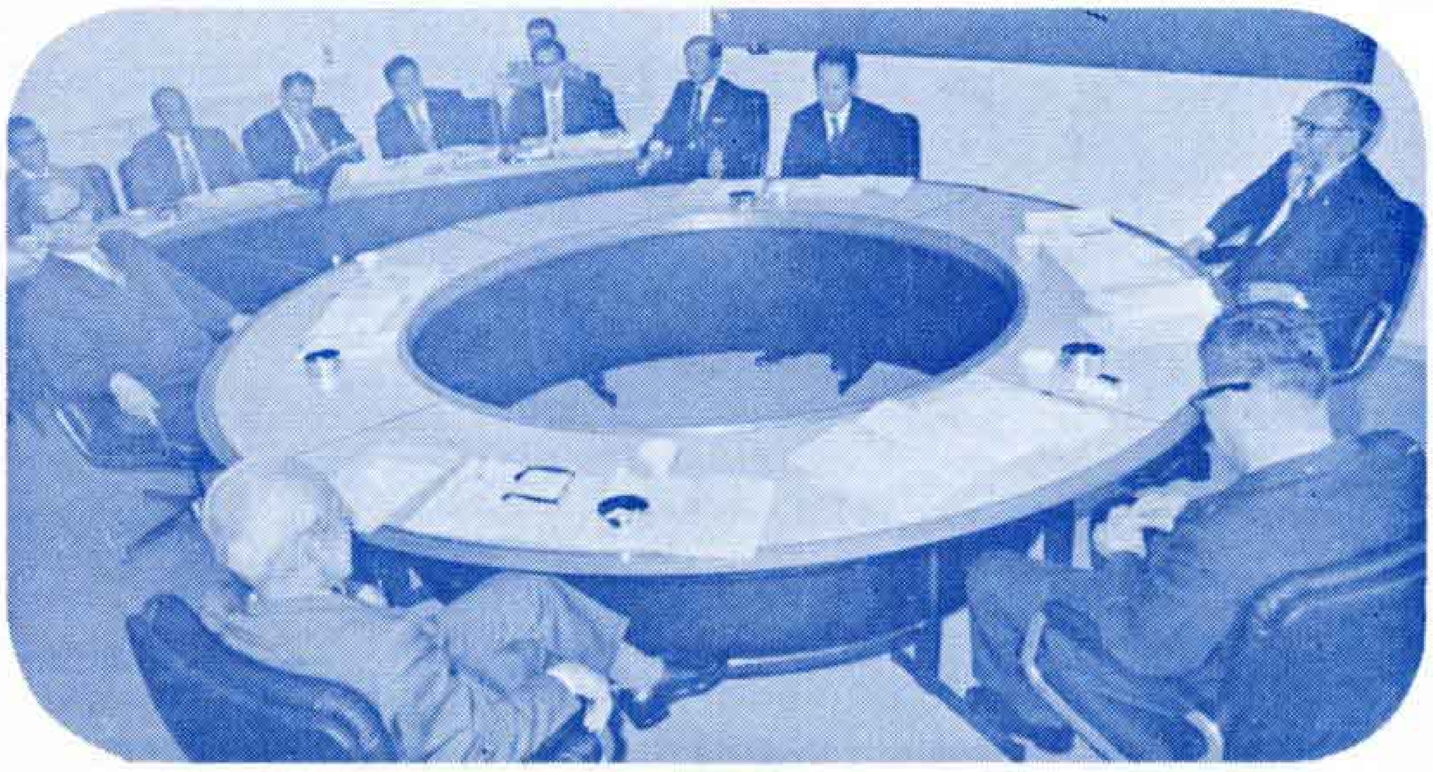
4市1町で準備会を結成

周遊道路の開通、別荘地の分譲と最近は富士山の開発も進んでいます。5合目まで自動車で登れ、中腹の原始林にもだれもが簡単に行くことができるようになりました。

しかし、このまま開発していけば、自然はますます失われてしまいます。開発を進めるにも自然と調和のとれた方法で行なうことが大切です。一度破壊した自然を復元するには、開発して得た利潤の何千倍かの投資をしなければなりません

自然を守り、調和のとれた開発を進めるには、1つの市でいくら規制しても富士山全域を守ることはできません。富士山を行政区域に持つ市・町・県、しいては国が中心になつてやらなければなりません。

そこで、富士山の自然を守ることを目標にした〝富士山の自然と環境を守る会〟の準備会を結成し、さきごろ初会合を開きました。

この会合には渡辺富士市長、岩崎裾野市長、植松富士宮市長、鈴木御殿場市長湯山小山町長（代理森本経済課長）が出席し、4市1町が当面する諸問題などを話し合いました。

話し合いでは、まず静岡県側の体制固めをしてから、山梨、神奈川の両県にも参加を呼びかけ、広域的な組織に盛り上げる、国と県に呼びかけ特別立法をつくつて乱開発を防止する、などの意見が一致しました。このほか、〝観光開発と保全問題〟〝大沢くずれなど自然災害からどう守るか〟〝乱開発は富士山の崩壊を早めるので、富士山の価値を再認識する〟など活発な意見がかわされました。